



## 第 12 回 土 佐 教 育 研 究 大 会 土 佐 教 育 研 究 会 創 立 50 周 年 記 念 講 演 会

- 1 期 日 令和3年8月16日 (月)
- 2 主 催 土佐教育研究会
- 3 後 援 高知県教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会  
(公財) 日本教育公務員弘済会高知支部
- 4 場 所 高知会館2階 白鳳の間
- 5 日 程 13:00～13:15 受付  
13:15～13:25 開会行事  
13:25～14:40 支部提案 (5支部より 各支部15分程度)  
14:50～16:20 講演  
16:20～16:30 閉会行事
- 6 支部提案

支部名	教科等	テーマ	発表者	所属
東部	教育課程	概念的理解を深める学びの創造 ～国際バカロレア初等教育プログラムの実践より～	百田 曜誠	香美市立大宮小学校
中部	社会	追究する子どもを育てる	彼末 健一	南国市立大篠小学校
高知	人権教育	性の多様性について理解を深める	宮田 伯子	高知市立一宮小学校
高岡	小規模・ 複式	小規模の良さを活かした総合的な学習の実践	黒瀬 忠行	佐川町立黒岩小学校
西部	学校経営	授業の質を向上させる組織改革 ～小学校における教科担任制を通して～	坂本恭美子	黒潮町立南郷小学校

### 7 講 演

演 題 「みんなの特別支援教育～通常の学級で取り組むこと～」

講 師 関西国際大学 教育学部 学部長 大学院人間行動学研究所

中尾 繁樹 教授

## IB の学習者像

### 探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身に付けます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

### 知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

### 考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で理論的な判断を下します。

### コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

### 信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公平な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々をもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

### 心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

### 思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

### 挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

### バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

## 振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

## 教科の枠をこえた6つのテーマ

### ☆6つのテーマの特徴

- ・ 私たちが共有する共通性をとらえている。
- ・ 世界全体における人間のありようは複雑で相互につながっていることを示している。
- ・ 世界で現実に行っている課題についての対話に児童をいざなう。
- ・ 教科を真の意味で組み込めるようにする。
- ・ PYP の独自性に貢献する。

## Who we are 私たちは誰なのか

探究の対象：自己の本質／信念と価値観／個人的、身体的、心理的、社会的、精神的な健全さ／家族、友人、コミュニティ、文化圏を含めた人間関係／権利と責任／人間であるということの意味

## Where we are in place and time 私たちはどのような場所と時代にいるのか

探究の対象：空間と時間における位置づけ／個人の歴史／故郷と旅／人類による発見、探検、移住／地域社会とグローバルの観点から見た個人と文明の関係およびそれらの相互のつながり

## How we express ourselves 私たちはどのように自分を表現するのか

探究の対象：アイデア、感情、自然、文化、信念、価値観の発見と表現／私たちは自分の創造性をどのように振り返り、発展させ、楽しむのか／私たちはどのように美を鑑賞するのか

## How the world works 世界はどのような仕組みになっているのか

探究の対象：自然界とその法則／自然界（物理学的・生物学的）と人間社会の相互作用／科学原理の理解を人間がどのように利用しているか／科学と技術の発展が社会と環境に及ぼす影響

## How we organize ourselves 私たちは自分たちをどう組織しているのか

探究の対象：人間がつくったシステムとコミュニティの間の相互のつながり／組織の構造と機能／社会のなかで下される意思決定／経済活動と人類および環境への影響

## Sharing the planet この地球を共有するという事

探究の対象：限られた資源を他の人々や生物と共有するにあたっての権利と責任／コミュニティとその内外の関係／平等な機会へのアクセス／平和と紛争解決

## 重要概念 (Key Concept)

教科の枠をこえた学習，あるいは教科に特化した学習における概念的  
理解のためのレンズをもたらすもの。重要な問いの鍵となるもの。

**Form 特徴** それはどのようなものか？

すべてのものは、観察、特定、描写そして分類可能な、認識できる特徴をもつ形式があるという理解。

**Function 機能** それはどのように機能するのか？

すべてのものには、調査可能な目的、役割、行動方法があるという理解。

**Causation 原因** それはなぜそうなのか？

物事は理由がなく起こることはなく、起因関係があり、行動には結果が伴うという理解。

**Change 変化** それはどのように変わっているのか？

変化とは一つの状態からまた別の状態へ移るプロセスであり、普遍的で不可避なものである、という理解。

**Connection 関連** それは他のものとどのようにつながっているのか？

私たちは個々の要素による行動が他のものに影響を及ぼす相互作用システムを持った世界に生きているという理解。

**Perspective 視点** どのような見方があるのか？

知識はものの見方によって制御されており、異なるものの見方は異なる解釈、理解、発見を生み、ものの見方は個人的、集団的、文化的そして学問的でありえるという理解。

**Responsibility 責任** 私たちにはどんな責任があるのか？

人々は自分の理解にもとづいて選択を行い、その結果とし人々がとる行動は違いを生むという理解。

参考資料：IB資料「Making the PYP happen」



学年		①	②	③	④	⑤	⑥
1	セントラルアイデア	私たちの生活は人々のはたらきによって支えられている	自然界には法則がたくさんある	生き物は互いにつながっている	見方が変われば魅力が広がる	公共施設は人々の繋がりを強化する	私たちはたくさんの愛でかまれている
	領域の必須項目	組織の構造と機能	自然界とその法則について	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかというところに関与する権利と責任について	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を発見し表現するのか	場所と時間への適応	自分自身の性質、家族・友人・コミュニティ・そして文化圏を含めた人間関係
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①学校の役割と働く人の探究(機能) ②学校と家の違いの探究(特徴)	①観察の視点と方法の探究(特徴) ②植物の成長にともなう変化の探究(変化) ③植物のさまざまな姿の探究(機能)	①生き物の相互関係の探究(関連) ②生き物のからだの仕組みの探究(特徴) ③生き物を大切にするために私たちにできることの探究(責任)	①遊びの多様性の探究(視点) ②創造的な遊びの探究(変化)	①公共施設の役割とそこで働く人の探究(機能) ②公共施設と家の違いの探究(責任)	①自分自身の成長の探究(変化) ②自身の成長の背景の探究(原因)
2	セントラルアイデア	すべてのシンボルにはメッセージがこめられている	私たちは自然の恩恵と脅威の中で生きている	人間の生活は科学の力とともに発展してきた	それぞれの町は時間的空間と場所的空間でできている	思いを表現する方法はたくさんある	個性の融合がコミュニティを活性化させる
	領域の必須項目	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかというところに関与する権利と責任について	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	場所と時間への適応	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を発見し表現するのか	自分自身の性質、信念と価値観
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①サインとシンボルのもつ意味の探究(機能) ②シンボル化された10の学習者像の探究(関連) ③シンボルを大切にすることの探究(責任)	①自然の恩恵と脅威の探究(特徴) ②体感、実感する自然の恩恵と脅威の探究(視点) ③自然を生かした生活の探究(関連) 植物の発芽と成長⑤	①科学の力の特性と働きの探究(機能) ②科学の力と私たちのくらしの関わり方の探究(関連) ③科学の力の利用の探究(変化)	①地図表現の探究(機能) ②地域と自分との関わり方の探究(関連) ③自分たちの町「香北」の探究(特徴)	①ノンバーバルな表現の方法の探究(特徴) ②ノンバーバルな表現と受け取り方の探究(原因、視点)	①自分と他者の違いの探究(視点) ②人々の相互関係の探究(関連) ③互いの尊重の探究(責任)
3	セントラルアイデア	学びは人生を豊かにする	いろいろな人のこだわりで私たちの生活は成り立っている	自由な発想が豊かな創造力につながる	今は過去で創られ、未来は今が創る	消費者の選択と地球環境は関係する	人々の生活は自然現象に適応し、変化してきた
	領域の必須項目	自分自身の性質、信念と価値観	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	私たちの美的鑑賞について	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかというところに関与する権利と責任について	自然界(物理学のおよび生物学的な)と人間社会のかかわり
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①キーコンセプトを通じた学びの探究(特徴) ②消防署の役割と働く人々の探究(機能) ③自分たちに学びの探究(関連)	①地域でこだわりをもって仕事をしている人の探究(特徴) ②こだわりが自分たちの生活に与えている影響の探究(関連) ③こだわりに支えら生活している地域の子どもの役割の探究(責任)	①表現の技の探究(特徴) ②思いの具現化の探究(変化) ③作者の思いの探究(視点) 1, 2学期	①昔と今の生活の移り変わりの探究(変化) ②時代を変えた人々の探究(原因) ③未来を創る自分たちにできることの探究(責任)	①ごみの種類と行方の探究(機能) ②ごみとは何かの探究(視点) ③地球環境を守るために私たちにできることの探究(責任)	①太陽・月・星の現象の探究(変化) ②身の回りの事象の原因の探究(原因) ③私たちの生活とのかかわりの探究(関連)
4	セントラルアイデア	水は限りある資源である	地形と気候は文化に影響する	制約と創造は芸術の源である	産業のかけ算は地域を救う	幸せな未来は心と体の健康から始まる	食文化の形成は化学的変化と密接に関係している
	領域の必須項目	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかというところに関与する権利と責任について	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	個人的・身体的・精神的・社会的・そしてスピリチュアルな健康	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①水と私たちの関係の探究(関連) ②限りある資源である水の循環の探究(機能) ③限りある資源である水の重要性の探究(責任)	①世界から見た日本の探究(視点) ②暮らしと気候・風土のかかわりの探究(関連) ③衣食住から見る地域の暮らしの探究(特徴)	①制約のもつ価値の探究(機能) ②詩・短歌・俳句の創作の探究(特徴) ③作品の味わい方の探究(視点)	①日本の産業の探究(特徴) ②産業の掛け算の探究(変化) ③郷土を担う私たちの生活の探究(責任)	①人の体と病気の因果関係の探究(原因) ②健康な人の体の働きの探究(機能) ③よりよい暮らしの探究(変化)	①科学的法則の探究(機能) ②生活の中の科学的法則の探究(原因、関連)
5	セントラルアイデア	情報収集や分析は、我々の生活をより確かなものにする	自由は権利の相互的な尊重の上に成立する	すべての情報は意図的に編集されている	人間の選択は環境に影響を与える	産業のかけ算は地域を救う	歴史は常に未来へ問いかける
	領域の必須項目	自然界(物理学のおよび生物学的な)と人間社会のかかわり	権利と責任	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか	機会均等の実現について	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①情報収集と分析、予測の探究(特徴) ②情報収集、分析、予測の方法と科学技術の進展の探究(変化) ③予測が私たちの生活に及ぼす影響の探究(関連)	①法と義務と権利の探究(機能) ②人類が獲得してきた権利の探究(原因) ③真の自由の探究(責任)	①情報のもつ側面の探究(視点) ②編集者の意図の探究(原因) ③情報発信者のもつ責任の探究(責任)	①それぞれの立場から見る環境問題の探究(視点) ②世界の環境問題の背景の探究(原因) ③未来を守る私たちの責任の探究(責任)	①日本の産業の探究(特徴) ②産業の掛け算の探究(変化) ③郷土を担う私たちの生活の探究(責任)	①戦争の背景の探究(原因) ②互いの国の立場から見た戦争の探究(視点) ③歴史からの教訓の探究(責任)
6	セントラルアイデア	一人ひとりが地球人としての役割をもっている	自由は権利の相互的な尊重の上に成立する	責任ある選択と行動がより良い未来を創造する	食文化の形成は化学的変化と密接に関係している	世界の創造は人類の移動と関係する	想像と創造の融合が感動を生む
	領域の必須項目	コミュニティ内およびコミュニティ関係の関連性、平和そして紛争解決	権利と責任	組織の構造と機能、社会的意思決定	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	人類による発見・探検・移住	私たちはどうやって自分の創造性について考え、それを発展させ、楽しむのか
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	Exhibition 平和の追求	①法と義務と権利の探究(機能) ②人類が獲得してきた権利の探究(原因) ③真の自由の探究(責任)	①私たちの生活と税金の関係の探究(関連) ②国の政治の仕組みの探究(機能) ③私たちがもつ一票の重みの探究(責任)	①科学的法則の探究(機能) ②生活の中の科学的法則の探究(原因、関連)	①様々な国の成立の探究(特徴) ②人類の移住の背景の探究(原因) ③人類が目指すべき未来の探究(責任)	①人の心を動かす作品の探究(視点) ②表現の技の探究(機能) ③思いの具現化の探究(原因)



学年		Who we are	Where we are in place and time	How we express ourselves	How the world works	How we organize ourselves	Sharing the planet
1	セントラル アイデア	私たちはたくさんの 愛でかこまれている	公共施設は人々の繋がりを強化する	見方が変われば魅力が広がる	自然界には法則がたくさんある	私たちの生活は人々のはたらきによって支えられている	生き物は互いにつながっている
	領域の必須項目	自分自身の性質, 家族・友人・コミュニティ・そして文化圏を含めた人間関係	場所と時間への適応	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を発見し表現するのか	自然界とその法則について	組織の構造と機能	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかという取り組み上での権利と責任について
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①自分自身の成長の探究(変化) ②自身の成長の背景の探究(原因)	①公共施設の役割とそこで働く人の探究(機能) ②公共施設と家の違いの探究(責任)	①遊びの多様性の探究(視点) ②創造的な遊びの探究(変化)	①観察の視点と方法の探究(特徴) ②植物の成長にともなう変化の探究(変化) ③植物のさまざまな姿の探究(機能)	①学校の役割と働く人の探究(機能) ②学校と家の違いの探究(特徴)	①生き物の相互関係の探究(関連) ②生き物のからだの仕組みの探究(特徴) ③生き物を大切にするために私たちにできることの探究(責任)
2	セントラル アイデア	個性の融合が コミュニティを活性化する	それぞれの町は時間的空間と 場所的空間でできている	思いを表現する方法はたくさんある	人間の生活は科学の力と ともに発展してきた	すべてのシンボルにはメッセージが こめられている	私たちは自然の恩恵と 脅威の中で生きている
	領域の必須項目	自分自身の性質, 信念と価値観	場所と時間への適応	私たちはどうやって考え・感情・自然・文化・信念・価値観を発見し表現するのか	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかという取り組み上での権利と責任について
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①自分と他者の違いの探究(視点) ②人々の相互関係の探究(関連) ③互いの尊重の探究(責任)	①地図表現の探究(機能) ②地域と自分との関わりの探究(関連) ③自分たちの町「香北」の探究(特徴)	①ノンバーバルな表現の方法の探究(特徴) ②ノンバーバルな表現と受け取り方の探究(原因, 視点)	①科学の力の特性と働きの探究(機能) ②科学の力と私たちのくらしの関わりの探究(関連) ③科学の力の利用の探究(変化)	①サインとシンボルのもつ意味の探究(機能) ②シンボル化された10の学習者像の探究(関連) ③シンボルを大切にすることの探究(責任)	①自然の恩恵と脅威の探究(特徴) ②体感, 実感する自然の恩恵と脅威の探究(視点) ③自然を生かした生活の探究(関連) 植物の発芽と成長⑤
3	セントラル アイデア	学びは人生を豊かにする	今は過去で創られ, 未来は今が創る	自由な発想が 豊かな創造力につながる	人々の生活は自然現象に 適応し, 変化してきた	いろいろな人のこだわりで 私たちの生活は成り立っている	消費者の選択と 地球環境は関係する
	領域の必須項目	自分自身の性質, 信念と価値観	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性	私たちの美の鑑賞について	自然界(物理学のおよび生物学的な)と人間社会のかかわり	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかという取り組み上での権利と責任について
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①キーコンセプトを通じた学びの探究(特徴) ②消防署の役割と働く人々の探究(機能) ③自分たちに学びの探究(関連)	①昔と今の生活の移り変わりの探究(変化) ②時代を変えた人々の探究(原因) ③未来を創る自分たちにできることの探究(責任)	①表現の技の探究(特徴) ②思いの具現化の探究(変化) ③作者の思いの探究(視点) 1, 2学期	①太陽・月・星の現象の探究(変化) ②身の回りの事象の原因の探究(原因) ③私たちの生活とのかかわりの探究(関連)	①地域でこだわりをもって仕事をしている人の探究(特徴) ②こだわりが自分たちの生活に与えている影響の探究(関連) ③こだわりに支えら生活している地域の子どもの役割の探究(責任)	①ごみの種類と行方の探究(機能) ②ごみとは何かの探究(視点) ③地球環境を守るために私たちにできることの探究(責任)
4	セントラル アイデア	幸せな未来は 心と体の健康から始まる	地形と気候は文化に影響する	制約と創造は芸術の源である	食文化の形成は化学的変化と 密接に関係している	産業のかけ算は地域を救う	水は限りある資源である
	領域の必須項目	個人的・身体的・精神的・社会的・そしてスピリチュアルな健康	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性	私たちはどうやって自分の創造性について考え, それを発展させ, 楽しむのか	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	限られた資源を他の人々そして他の生物とどのように分け合うかという取り組み上での権利と責任について
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①人の体と病気の因果関係の探究(原因) ②健康な人の体の働きの探究(機能) ③よりよい暮らしの探究(変化)	①世界から見た日本の探究(視点) ②暮らしと気候・風土のかかわりの探究(関連) ③衣食住から見る地域の暮らしの探究(特徴)	①制約のもつ価値の探究(機能) ②詩・短歌・俳句の創作の探究(特徴) ③作品の味わい方の探究(視点)	①科学的法則の探究(機能) ②生活の中の科学的法則の探究(原因, 関連)	①日本の産業の探究(特徴) ②産業の掛け算の探究(変化) ③郷土を担う私たちの生活の探究(責任)	①水と私たちの関係の探究(関連) ②限りある資源である水の循環の探究(機能) ③限りある資源である水の重要性の探究(責任)
5	セントラル アイデア	自由は権利の相互的な 尊重の上に成立する	歴史は常に未来へ問いかける	すべての情報は意図的に 編集されている	情報収集や分析は, 我々の生活を より確かなものにする	産業のかけ算は地域を救う	人間の選択は環境に影響を与える
	領域の必須項目	権利と責任	地球規模・そして地域レベルの観点から見た個人と文明の関係性と相互的な関連性	私たちはどうやって自分の創造性について考え, それを発展させ, 楽しむのか	自然界(物理学のおよび生物学的な)と人間社会のかかわり	人間の作ったシステムとコミュニティの相互的な関連性	機会均等の実現について
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①法と義務と権利の探究(機能) ②人類が獲得してきた権利の探究(原因) ③真の自由の探究(責任)	①戦争の背景の探究(原因) ②互いの国の立場から見た戦争の探究(視点) ③歴史からの教訓の探究(責任)	①情報のもつ側面の探究(視点) ②編集者の意図の探究(原因) ③情報発信者のもつ責任の探究(責任)	①情報収集と分析, 予測の探究(特徴) ②情報収集, 分析, 予測の方法と科学技術の進展の探究(変化) ③予測が私たちの生活に及ぼす影響の探究(関連)	①日本の産業の探究(特徴) ②産業の掛け算の探究(変化) ③郷土を担う私たちの生活の探究(責任)	①それぞれの立場から見る環境問題の探究(視点) ②世界の環境問題の背景の探究(原因) ③未来を守る私たちの責任の探究(責任)
6	セントラル アイデア	自由は権利の相互的な 尊重の上に成立する	世界の創造は 人類の移動と関係する	想像と創造の融合が感動を生む	食文化の形成は化学的変化と 密接に関係している	責任ある選択と行動がより良い 未来を創造する	一人ひとりが地球人としての 役割をもっている
	領域の必須項目	権利と責任	人類による発見・探検・移住	私たちはどうやって自分の創造性について考え, それを発展させ, 楽しむのか	科学の原理について理解したことを人間がどのように利用しているか	組織の構造と機能, 社会的意思決定	コミュニティ内およびコミュニティ関係の関係性, 平和そして紛争解決
	Key Concepts キーコンセプト Lines of Inquiry	①法と義務と権利の探究(機能) ②人類が獲得してきた権利の探究(原因) ③真の自由の探究(責任)	①様々な国の成立の探究(特徴) ②人類の移住の背景の探究(原因) ③人類が目指すべき未来の探究(責任)	①人の心を動かす作品の探究(視点) ②表現の技の探究(機能) ③思いの具現化の探究(原因)	①科学的法則の探究(機能) ②生活の中の科学的法則の探究(原因, 関連)	①私たちの生活と税金の関係の探究(関連) ②国の政治の仕組みの探究(機能) ③私たちがもつ一票の重みの探究(責任)	Exhibition 平和の追求



土佐教育研究会第12回土佐教育研究大会  
土佐教育研究会創立50周年記念講演会

# 追究する子どもを育てる

令和3年8月16日(月)

中部支部 社会科  
南国市立大隈小学校 彼末 健一

## 1 追究する子どもを育てる社会科教育研究会研修会

国士舘大学教授

元文部科学省視学官 澤井 陽介先生

「追究の鬼を育てる」 有田 和正先生



## 2 南国市の課題

### (1) 社会科を研究する教員の減少

○南国市教育研究所の教科・教科外部会の廃止

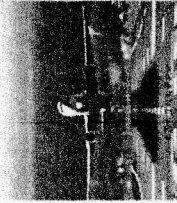
○社会科副読本「南国市のくらし」(3・4年生用)

○ " 「南国市の歴史」 (6年生用)

- ・編集・執筆教員の減少…かつては、社会科部会の教員が担当
- ・編集委員 = 市内13校より、1名以上ずつ選出

(毎年メンバーが代わる。ノウハウの継承が困難)

南国市のくらし



## 2 南国市の課題 (高知県の課題)

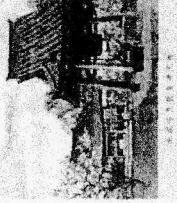
### (2) 初任者の約8割が県外出身者

○高知県の地理・歴史・風土を知らない

○学校・教員の困り感、要望

- ・社会科の授業をどのようにつくっていくべきなのか…
- ・副読本の「指導の手引き(指導書)」をつくってほしい…

南国市の歴史

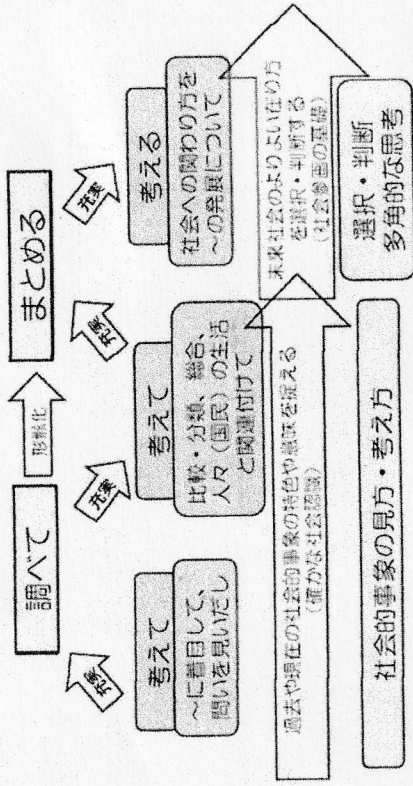


要望に応えていくことが本研究会の存在意義!

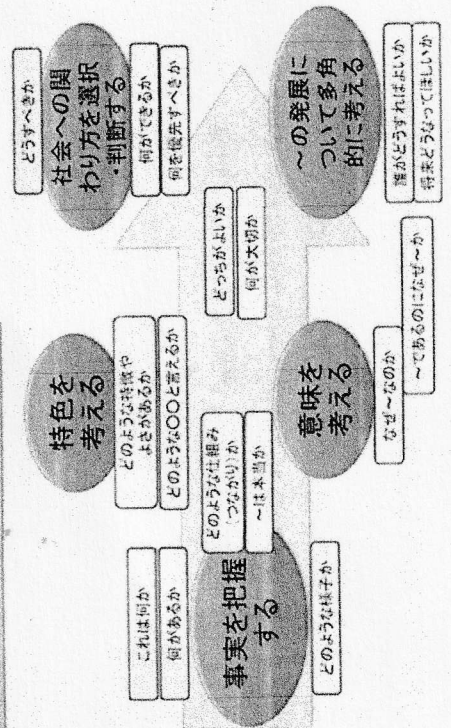
### 3 課題改善に資するため

- (1) 冬季研修会の開催
  - 公開授業…追究する子どもの姿 → 「指導の手引き」作成
  - 澤井先生の講演…旬のテーマ
  - 教材開発・授業づくりミニ講座
- (2) 南国市教育研究所とのコラボ
  - 「南国市のくらし」を活用した授業づくり講座 } 若年教員対象
  - 地域教材開発フィールド・ワーク (バスツアー)
- (3) 歴史民俗資料館・埋蔵文化財センター等とのコラボ
  - 「南国市のくらし」「南国市の歴史」の共同執筆

### 1 社会科らしい問題解決的な学習の充実



### 「問いの深まり」の例(社会科)



く日探、意味や事象のつながりを探るという段階で、人々の関心は、  
 ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤) (Choosing/judging better living conditions in future society (basis for social participation))

① 特色を捉える: ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤)

② 分類・整理: ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤)

③ 総合・判断: ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤)

④ 社会への関わり方について考える: ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤)

⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤): ① 特色を捉える、② 分類・整理、③ 総合・判断、④ 社会への関わり方について考える、⑤ 未来社会のよりよい住み方を 選択・判断する (社会参画の基盤)



## 私の社会科授業のスタンダード

**つかむ**

- 事象と出会い、問題をつかむ。
- 追究する**
- 予想を立てる。
- 調べて、自分の考えをもつ。
- 考えを交流し、深める。

**まとめ**

- 学習をまとめ、ふり返る。
- あたらしい問題を見つける。

単元・小単元・一時間の学習の中で

**【実物】**

- ・既習事項
- ・経験や体験
- ・これまでに身につけた知識

**【商品ラベル】**

- ・写真・想像図・など

**【体験】**

- ・観察・見学

**【動画】**

- ・教科書
- ・資料集
- ・社会科事典
- ・南国市の歴史・くらし
- ・図書の本
- ・その他

根拠や解釈を示しながら自分の考えを友だちに伝える。  
 ・友だちの考えを聞きながら資料等で確かめ、考えを深める。

本時の課題についてまとめる。  
 ・「今日の学習で」を書き、学習をふり返る。

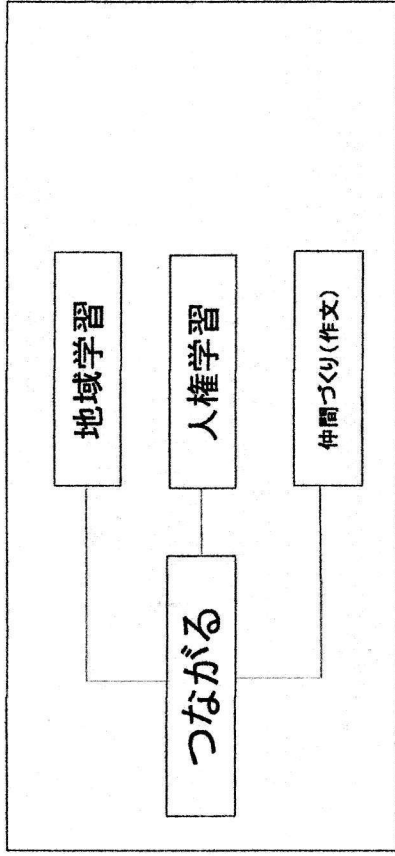
子どもの言葉で始まる授業

### 第37回追究する子どもを育てる社会科教育研究会冬季研修会 (案)

- 1 日時 令和3年12月4日(土) 10:30~16:45
- 2 日程
  - 10:30~11:15 授業① (大篠小学校5年1組)
  - 11:30~12:20 研究協議 (授業①について)
  - 12:20~13:30 昼食・休憩
  - 13:30~14:15 授業② (大篠小学校4年4組)
  - 14:30~15:10 研究協議 (授業②について)
  - 15:20~16:40 講話
  - 16:40~16:45 閉会行事
- 3 場所 南国市立大篠小学校 視聴覚室 (南舎4階)
- 4 講師 国士館大学 教授 澤井陽介 先生

## 性の多様性について理解を深める

2021年8月16日  
総合的な学習の時間 人権学習  
高知市立一宮小学校 宮田伯子



## 6年人権学習の指導計画(総合的な学習の時間・社会科)

- (1)教科書無償化闘争
- (2)日本国憲法(国民主権・基本的人権の尊重・平和主義)
- (3)ハンセン病・アイヌの人々
- (4)平和学習
- (5)社会科歴史学習(身分ごとに異なる暮らし・腑分けと解体新書)  
洪染一揆を闘った人々  
差別されてきた人々の仕事(中世～近世)  
きびしい差別の中をたくましく生きぬいてきた人々(賤称語指導)  
解放令・差別に対する闘い・全国水平社
- (6)くらしを高めてきた地域の人々
- (7)性的指向・性自認
- (8)10の課題

## ▶なぜ性的指向・性自認の学習を進めていくのか？

多様な性について理解を深めるため  
お互いを尊重できる人間関係を築いていくため  
性的マイノリティ者が人口の約8%～10%という結果から身近にいること  
が予想されるため  
将来、差別にであつたときのため 等

## ▶そのために

科学的認識  
仲間づくり  
自分の中の差別意識に向き合う

正しいこと  
正しく分析し  
正しく伝え  
正しく導く  
自分と向き合う

総合的な学習の時間

笑顔あふれる一宮～今の自分にできること～

### 差別に対する8つの立場

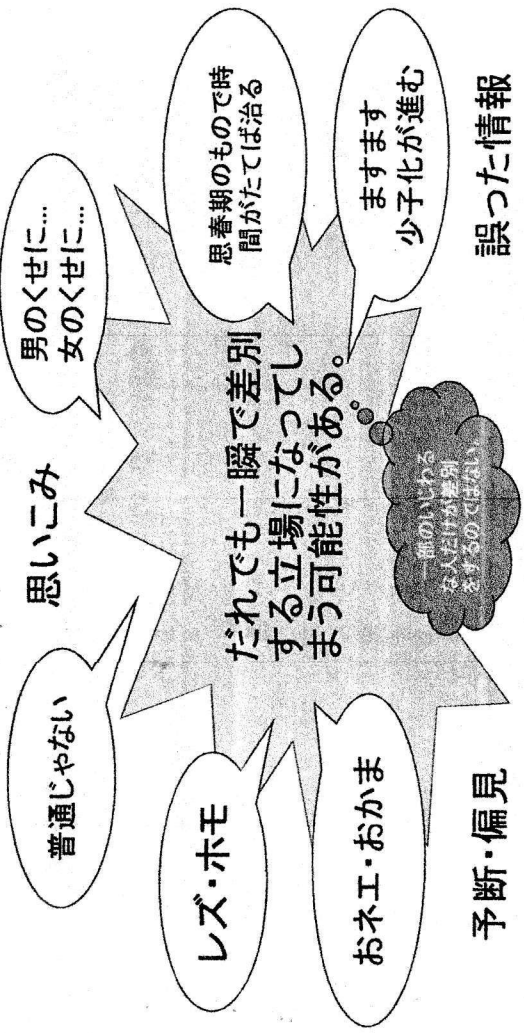
(同和問題に関する啓発の手引き 福岡県参照)

- ①差別をする人
- ②差別をあおる人
- ③差別に同調する人
- ④差別に対し無関心な人
- ⑤差別に傍観者の立場で接する人
- ⑥差別に対して無知な人
- ⑦差別される人
- ⑧差別をなくすために努力する人

総合的な学習の時間

単元名:性の多様性について考えよう

- ①差別に対する8つの立場 第1回  
「男らしさ、女らしさ」とは?について意見を出し合う  
DVD視聴→自分の差別意識に気付く
- ② 絵本の読み聞かせ  
「タンタンタンゴはパパふたり」「くまのトーマスは女の子」「王さまと王さま」
- ③もっと知りたいことを調べる(調べ学習)
- ④トランスジェンダーである大久保曉さんに質問したいことを考える
- ⑤⑥ トランスジェンダーである大久保曉さんの話を聞く
- ⑦差別に対する8つの立場 第2回
- ⑧新聞をつかって地域へ発信する(児童館やふれあいセンターに掲示)

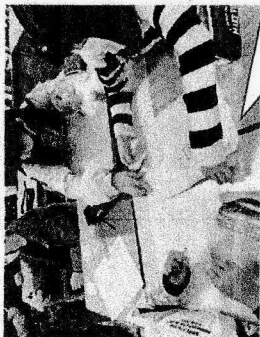


予断・偏見

誤った情報



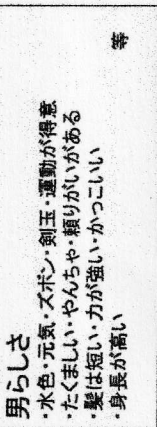
①差別に対する8つの立場 第1回  
「男らしさ、女らしさ」とは？と聞いて意見を出し合う  
DVD視聴→自分の差別意識に気付く



女らしさ

- ・ピンク・おしやれ・きれいな化粧・スカート
- ・料理・髪が長い・家事・字がきれい
- ・かわいいものが好き
- ・運動があまり好きでない

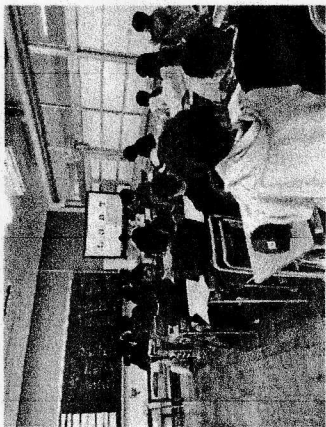
等



男らしさ

- ・水色・元氣・スポン・剣玉・運動が得意
- ・たくましい・やんちゃ・頼りがいがある
- ・髪は短い・力が強い・かっこいい
- ・身長が高い

等



1時間の児童の学び

- ・最近まで「ホモ」という言葉を使っていいから、差別をしている人だと思っただけ。無知なことから、遊びの中で使ってしまった。この学習で知識的なことも学んでいきたい。
- ・DVDをみて、自分が差別していたことに気づいた。自分の発言が恥ずかしいと思っただけ。差別は無意識のうちにあることがわかった。

②絵本の読み聞かせ

児童の感想



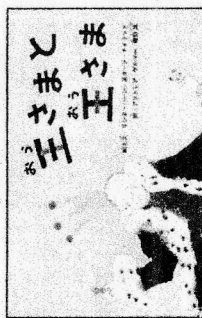
くまのトーマスはおんなのこ

トーマスのおんなのこ



・お父さんが二人いてもいいけど、お父さんが二人いても人間も動物もだれを好きになろうと自分の自由。飼育員さんのように理解しようとする人になりたいし、そういう人が増えてほしい。

・友達には性別は関係ないと思うところが本当の友達だと思った。  
・友達に自分のことを話すのは勇気がいることだけど、本当の友情があるから話したと思う。



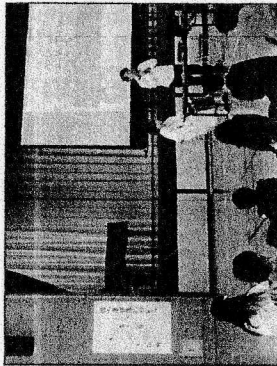
・お姫様と王様が結婚するのが当たり前と感じてしまったが、王様は王様を好きになった。好きな人を好きといえる王様がいい。  
・王様のお母さんの女王様が結婚のことをいうのは、おかしいと思った。王様は王様と結婚できてよかった。

③もっと知りたいことを調べる  
④トランスジェンダーである大久保さんに質問したいこと

- ・男・女で分けられることに悩んだり、困ったりしたことは何ですか？
- ・トランスジェンダーであることに気づき、自分の思いの持ち方に変化はありましたか？
- ・トランスジェンダーであるということに気づき、悩むことや苦しかったことはありますか？
- ・カミングアウトをして手術をするときに反対されることはありませんでしたか？
- ・日本では同性が結婚できないことについて、どう思いますか？



⑤⑥ トランスジェンダーである大久保さんの話を聞く



性の多様性について  
～一人一人違うから輝く～  
大久保 暁

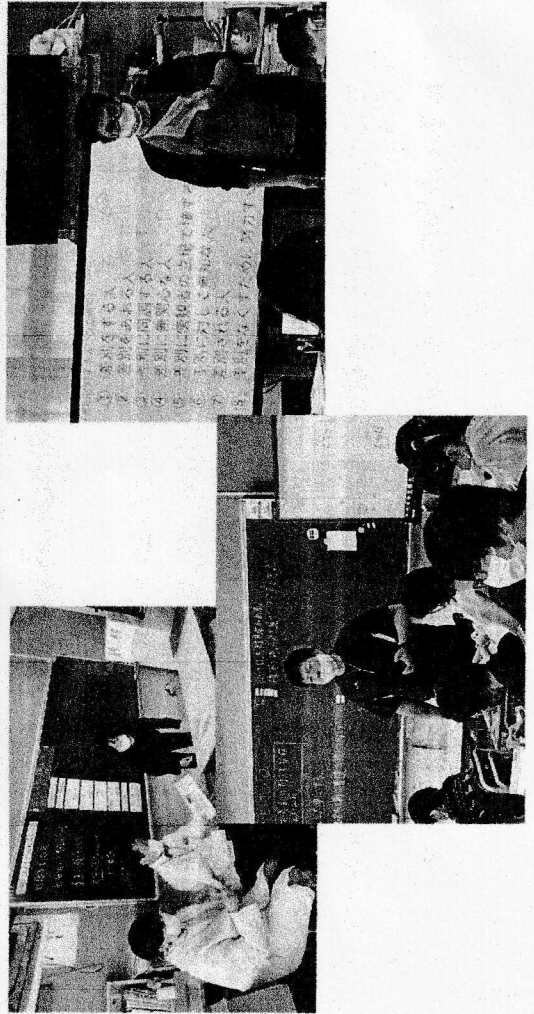
- ・性のあり方4要素  
見た目で判断してはいけない  
決めるのは自分自身
- ・トランスジェンダーといっても十人十色  
自分の当たり前はみんなの当たり前ではない
- ・配慮の必要な言葉
- ・カミングアウトされた場合の対応

等

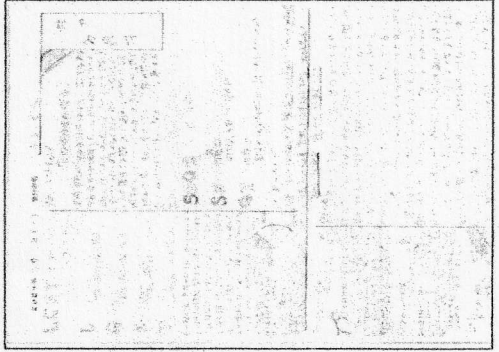
⑦ 差別に対する8つの立場 第2回

- ・それぞれ個性があって、みんな違うからいいということがあった。それぞれ違う個性を大切に、理解しようとする気持ちをもち続けたい。女らしく、男らしくではなく、自分らしくといえるようになりたい。
- ・大久保さんの話を聞いて、みんなが信頼できるクラスをつくっていききたいと思った。
- ・大久保さんの話を聞いて、自分には関係ないと思わなくなった。6-1のみんな、性の多様性について勉強できたことで自分の気持ちが変わった。
- ・LGBTにかぎらず、自分の言葉でまわりの人が傷つくことや差別につながることをわかった。少しでも、みんなが勉強して、みんなが自分らしく生きることができるといい。

あなたは、性の多様性について、どのように考えますか。



⑧ 新聞をつくって地域へ発信(児童館やふれあいセンターに掲示)



児童の変化

- ・「LGBT」という言葉も意味も知らなかった。異性を好きになることが当たり前と思って、同性を好きになることを変だと思ってしまっていた。思い込みや決めつけで、勝手に何かを決められることはおかしいということに気づけた。
- ・はじめは私自身が異性を好きになることはおかしいと思っていた。大久保さんの話やみんなと勉強していくうちに考えが変わった。この勉強をしていない人がいて、差別につながるような発言をしていても、説明する自信がまだない。いつか、注意したり、説明したりできるようにになりたい。

2020年度卒業生  
6年 大家 璃空  
高知市 人権作品  
標語の部 優秀

「うわさ」  
本当に信じていいの  
そのうわさ  
どどん広がつて  
苦しむ人がいる  
悲しむ人がいる  
自分の居場所  
自分の大切な人  
すべてを失う  
そのうわさ

2019年度卒業生  
6年 松尾 心  
高知市 人権作品  
標語の部 優秀

「普通」  
自分の普通  
家族の普通  
友だちの普通  
日本の普通  
世界の普通  
人それぞれの「普通」がある  
普通とは何か

2020年度卒業生  
6年 吉川 千絵璃  
高知市 人権作品  
標語の部 優秀

「個性は自分そのもの」  
めがねをかけている人 かけていない人  
背が高い人 低い人  
やせている人 太っている人  
勉強が好きない人 きらいな人  
スポーツが好きない人 好きな人  
元気な人 おどかしい人  
顔も体もちがうから  
個性が輝く  
個性がない人はいない  
個性は自分そのもの



2020年11月25日(水)高知新聞





## 小規模校の良さを活かした 総合的な学習の実践

高岡支部 小規模・複式部会



佐川町立黒岩小学校  
校長 黒瀬 忠行

## 本校の総合的な学習の実態

- 学校のまわりにはたくさんの学習素材がある。  
特産物、伝統芸能、防災、地域活性化など
- 地域の協力が得られる  
地域学校協働本部事業による協力者多数
- 体験ばかりで探究的な学習になっていない  
探究的な学習を学ぶ機会が無かった

## 探究的な学習を学ぶ機会を作る

- 3～6年(32名)と一緒に学ぶ  
小規模校の良さを活かす(縦割り班)
- 河川財団の支援事業の活用(河川学習)  
人的・財政的な支援が得られる
- 学習コーディネーターを招聘  
高知大学・川村晶子客員准教授

## 河川学習の構想

- 学校前を流れる柳瀬川についての学習  
地域を深く学ぶことにも通じる
- プロジェクト型学習の基礎を学ぶ  
児童だけでなく教員も授業を通して学ぶ
- タブレットの有効活用を模索する  
一人1台の活用法の研究も併せて行う

## テーマと目標

- テーマ 柳瀬川をもっと好きになる!
- 3・4年生の目標  
柳瀬川を観察することを通して、自分や身の  
回りの人にとって柳瀬川がどんな存在である  
かを確認する。
- 5・6年生の目標  
柳瀬川について科学的・社会的に理解し、未  
来に向けて自分ができる自然環境保護行動を  
宣言する。

## 全体計画

- 取組期間 5月下旬～7月上旬
- 授業時数 20時間  
※学習コーディネーター参加は約半分
- 協力  
地域コーディネーター 地域の協力依頼  
県自然共生課(河川学習への人的支援)

## 取組計画

回数	授業内容
1	2 オリエンテーション、インプット①(今後のデジタル社会の進展)
3	調査活動(ネットでの川と人の関係について調べる)
4	5 インプット②(地域の方の体験談、川と人の共生)
6	7 データ収集(柳瀬川の写真を撮り、気になった点を書き込む)
8	聞き取り調査アンケート作成(川で遊んだ思い出、川への感情の収集)
9	10 地域の方への聞き取り調査
11	12 聞き取り調査発表、中間まとめ
13	14 アイデアソン「理想の柳瀬川を実現するための新しい遊び」
15	16 まとめ①(グループごとにアイデアをふくらませまとめる)
17	18 まとめ②(発表に向けた資料作り、発表練習)
19	20 地域の方に向けてアイデア発表、学習の振り返り

## タブレットの活用

■毎時間持って来させ、どこかで必ず使う

■使用アプリ ロイロノート

■提出した課題を学習コーディネーターが確認することにより、参加していない授業の様子を知ってもらうことができる

■本授業を通して、各教科の授業におけるロイロノートの使い方を提案する

## タブレットの活用例

- 児童の考えの収集  
知りたいこと、自分にできること
- ネットを使った調査活動  
川と人の関係
- 写真撮影  
柳瀬川の様子、聞き取り調査
- アイデアの投票  
良いアイデアに投票、参加アイデア決め
- 発表資料作り・発表  
分担して作り、リーダーに集める

## 児童が提案した新しい遊び

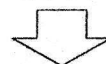
- テーマに沿った生き物の写真を撮る
- 鬼ごっこをしながらゴミ拾いをする
- カヌーをしながら魚に餌をやる
- チームに分かれてゴミ集めをする
- 光ってゴミの場所を教える技術を導入

## 取組の成果

- 探究的な学びのモデル例ができた。  
来年度も継続して取り組んでいきたい。
- タブレット活用例が提案できた。  
今後のさらなる活用の進展が期待できる。  
児童の操作技能の習熟も図れた。(夏休みの自由研究での活用など)

## 今後の課題

- 来年度のテーマ設定をどうするか？



地域と協働で検討したらどうか。  
※8/6学校運営協議会での熟議

↓  
「社会に開かれた教育課程」につながる

【主題】授業の質を向上させる組織改革  
【副題】小学校における教科担任制を通して

黒潮町立南郷小学校  
校長 坂本恭美子

## 1 はじめに

放課後の玄関には色とりどりのランドセルの花が咲く。運動場には虫取り、おにごっこ、木登りと笑顔で遊ぶ児童の姿が見える。時には教師も一緒に遊ぶ。この笑顔を曇らせないよう、我々教職員は日々奮闘している。全ての児童が目を輝かせる授業を実践したいと思い教材の準備をする。

学習指導要領に「能動的に学び続けることができるようにするためには学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要」と示された。授業改善を個々の教師の意識や力量だけに委ねるのではなく、学校経営の重点課題として組織的・協働的に取り組まなくてはならない。

## 2 本校の現状

本校は児童数50名教職員数13名である。家庭・地域共に学校に協力的で、子ども見守り隊や地域の子ども会活動も再結成され、街頭指導や学校行事にも積極的に取り組んでくれる。学校評価アンケート「学校に力をいれてほしいこと」の問いに対して保護者・地域共に1位は「わかりやすい授業をする」であった。また児童の学校評価アンケートの結果は「学校が楽しい」「先生は話を聞いてくれる」「友だちを大切にしようと思う」「学校に心を許させる友だちがいる」「人の役に立ちたいと思う」は全員が「そう思う」と回答しており、全ての児童が学校生活に一定満足しているのが伺われる。しかし一方で、表現する意欲や、粘り強く取り組む態度に課題があることも明らかになった。この課題は児童の性格や習慣等だけの問題ではない。日々の授業で発表してよかったと思う体験や、話す・書く技能を高める指導をしきれていない指導者側の課題として受け止める必要がある。

教師も自らの授業力を振り返っている。一昨年度と比較して「学習のねらい・見通しがわかる板書の工夫をする」が向上した。しかし依然、授業時間や対話的な授業構成に関する項目には課題がある。児童の主体性・対話を引き出す授業にしようとして全体で確認しても、教室からは教師の声だけが響く授業も少なくない。主体的・対話的な授業をイメージできないのではな

く、教材を解釈する力や児童の思考を理解する能力の差が指導力の差となり、児童の学力に影響している。この指導力の差を縮めるには、教材研究や教員間の学び合う時間が必要であるが、その時間は保障できているだろうか。

小学校は一般的に学級担任制であり、児童が登校してから下校するまで全時間を学級担任が担当する。児童の多くは、勤務始業時刻よりも早く登校するため、教師の大半は勤務開始時刻よりも三十分前には教室で児童を出迎えている。授業後も補習や委員会活動等の業務があり、昼の休憩時間でさえもノートの丸付け等に追われているのが現状だ。授業改善に必要な教材研究や準備の時間は、児童の下校後、午後4時半過ぎということが常態化している。

新しい学力観に則った質の高い授業を目指すことと、教員の勤務態様との隔たりを見直さなくては、授業改善は成しえることはできないのではないか。授業の質を上げていくことと「働き方」を変えていくことを両立させることが必要だと考えた。働き方改革とはそもそも「教員が自らの人間性や創造性を高め子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること」が目的であるはずだ。

授業改善を粘り強く組織的に推進するためには、まずは個々の教員の専門性・能力を生かし、働きがいのある環境を整えなければならない。

## 3 具体的な取組

(1)教科担任制～授業改善のための体制づくり～

令和2年度から、教員の専門性を最大限に生かし児童の学力を向上させる方策として教科担任制に取り組んでいる。

小学校における教科担任制の効果を次のように捉える。

- 教科の専門性をより追究した質の高い授業が可能となる。
- 学年、教科部会で協議することが多くなり、全児童を全教育職員で指導・支援するチーム支援の体制が整う。
- 教材研究等にかかる時間が軽減する。
- 全学年持ち時間数26時間以内と平準する。

□授業時間が守られる。

つまり教科担任制により、教師の指導技術も向上し勤務態様も改善するとの想定だ。ただし、本校のような小規模校で教科担任制に取り組むには、次の条件が必要である。

- 教頭を学級担任との兼務とせず専任とする。(複式学級解消のための対応として学級担任との兼務にしない。)
- 特別支援学級担任を、担当児童の通級学級等の教科担任とする。
- 体育・音楽は隣接学年(低・中・高)で合同授業を実施する。

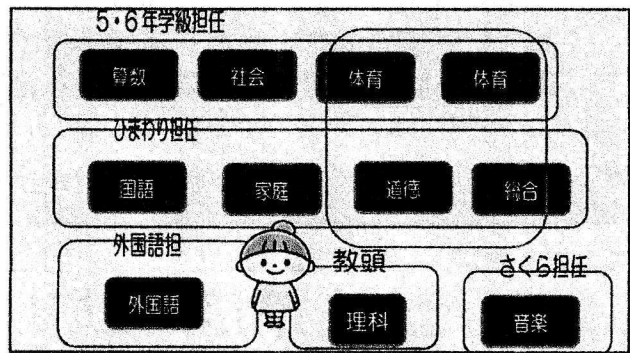
本校の学級編制は次のようになっている。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
R3	単式学級	単式学級	複式学級		複式学級		3学級編制

3・4年、5・6年は複式学級だが、教科担任制とすることで、算数・国語・理科・社会・外国語は単式化している。

右の図は、今年度の5・6年担任の受け持ち教科の時間割である。本来なら週31時間の授業時間中、担任が一人で受け持つ時間は19時間となっている。その他の時間は特別支援学級の担任とTTで担当したり、他の教員が担当したりする時間である。教科担任は単式学級の1・2年も例外ではなく、1年担任は1・2年の国語を受け持ち、2年担任は1・2年の算数を受け持っている。算数・国語は、ほぼ同時期に共通の領域が配列されており、教科担当は、学年の系統性を図りながら、教材を分析し、学習活動を組み立てやすいという効果がある。

5・6年担任					
	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	6算	5算	6算	5算	6算
2	音楽	6算	5算	6社	5社
3	6社	家庭	道徳	6図	音/家
4	5算	5社	体/図	6算	5算
5	5図	5総	5社	5総	6社
6	外国語	体育		体育	学活
7		チャレンジ			委ク
学年全時間：31時間 T1指導時間：22時間 T2等で指導：6時間					



上の図は6年生の授業担当教員を示している。昨年度から英語専科教員が町内の他校に配置され、本校も兼務していることから教科担任制をさらに整えることができた。時間割は複雑に生まれ、週に一回は学年部以外との週案の打ち合わせが必要となる。教員間のコミュニケーションも多くなり、職員室で児童の情報や授業の進め方について等、前向きな話題も聞こえてくる。

特に、特別支援学級の担任が交流学級の教科担任となることで、特別支援教育の視点が教科経営に反映され、全ての児童が「わかる」「できる」授業を目指す授業改善の目的がより明確になったことは特筆すべきことだ。授業を通して校内支援体制もより強化されたといえる。他にも教頭を教科担当としたことで教頭の業務も専念でき、学級担任の負担軽減も図ることができた。

教科担任制により授業改善の枠組み、つまり働く環境は整ったといえるが、授業改善の要は一人一人の教員の児童理解力・指導技術の向上だ。

(2) 教科の本質に迫る授業～「型」を習得し「技」を磨く

①授業レベル三構造＝授業の「型」段階的習得  
 目指す授業の姿を「聞き返し・問いかけのある学び合う授業づくり～全員が学習の主体者に～」とし、研究を進めている。これまでの授業の問題点を次のように整理した。

- 児童がわくわくするような課題設定になっていない。
- 児童の考えを引きださきれていない。
- わかる児童の考えだけで授業が進み全員でわかり合う授業ではない。間違いを生かしていない。

そこで、どの教科においても児童が主体となるように、授業レベル3構造(十段階「型」の段階的習得)を示している。この授業レベル3構造を本校の授業の「型」とし、指導技術の差からくる学力差の解消をねらっている。十段階



の「型」のうち、最も難易度の高い「型」が、「問題解決型の学び合い学習」だ。その攻略について説明する。



「課題の設定」の条件は、児童を困らせること。児童が困りどうにかしたいと思えるかが重要だ。困ることで解決する動機が生まれ、解きごたえのある課題は、仲間の力も必要となる。課題は難しくすぎても、簡単すぎてもだめだ。(難しいけど、解けるかもしれない) そう児童が思うことが肝心。ここからの展開に大きく影響する。

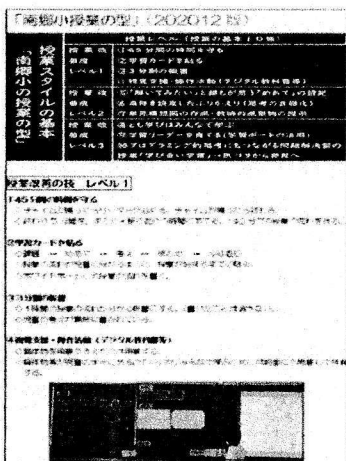
「とも学び」の条件は、協働して全員が解決の糸口を見つけるかどうかが重要である。とも学びの時間は、自由に席を立ち互いの考えを交流していいこととする。みんなで話しても解決の糸口が見つからず困った時にこそ教師の出番。教師は解決の方向を示す灯台となり、児童に光をあてる。光とは評価であり、ヒントであり、子ども同士をつなぐ言葉である。きっと児童はまた夢中になって課題に取り組むはずだ。しかしここに落とし穴があるから注意を怠ってはならない。対話の内容を把握し、できる子の考えだけで解決されていないか、じっと耳と目をこらし観察する。けっして、机で他の作業をしてはならない油断のならない時間である。

「終末」は必ず自らの学びを振り返る時間を保障すること。これも絶対に忘れてはならない。もちろん、基本の「型」が定着したら、より良い授業を追究し「型」を破ればいい。これが本来の「型破り」基本無くして発展はない。「型無し」にならないように教師は「型」を習得し「技」を磨く。

「終末」は必ず自らの学びを振り返る時間を保障すること。これも絶対に忘れてはならない。もちろん、基本の「型」が定着したら、より良い授業を追究し「型」を破ればいい。これが本来の「型破り」基本無くして発展はない。「型無し」にならないように教師は「型」を習得し「技」を磨く。

②情報機器を活用した構造的な板書

板書を見れば授業の流れや子どもの思考が見えるものだ。板書も基本は3分割構造とした。プロジェクターやタブレット等を活用し黒板の右端はデジタル教科書や児童のノートを写す場



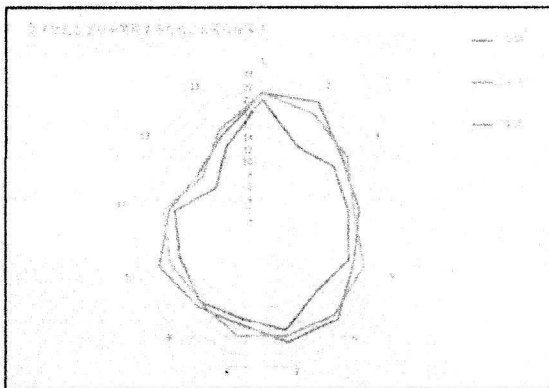
所としている。

③達人（外部講師）を招聘した教科部会

黒潮町の協力を得て教材解釈から指導案作成にいたるまで国語・算数の実践家に定期的に教科部会等に来ていただき学んでいる。時には模範授業を通して私たちに問いかけてくれる。また優れた音楽指導で実績のある教員 OB も招聘し、児童の歌唱指導だけでなく、学級経営のノウハウも学ばせてもらっている。少人数の職場では、外部からの刺激はとても貴重である。

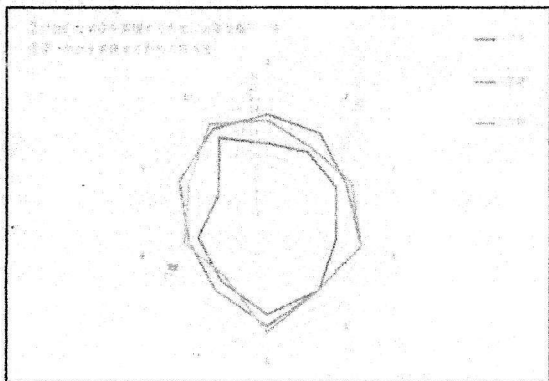
4 成果と課題

「主体的な学びに必要な指導法」「対話的・深い学びの実現」「児童理解力」「マネジメント力」で構成された授業力チェックの一学期末の結果は、児童理解に関する項目の評価が高かった。児童に寄り添いながら努力している教師の姿がその数値に表れている。また100%達成している項目は「学習カードが提示されている」「週案に基づき授業をしている」であり、授業の「型」第一レベルがほぼ全員到達したと評価できる。



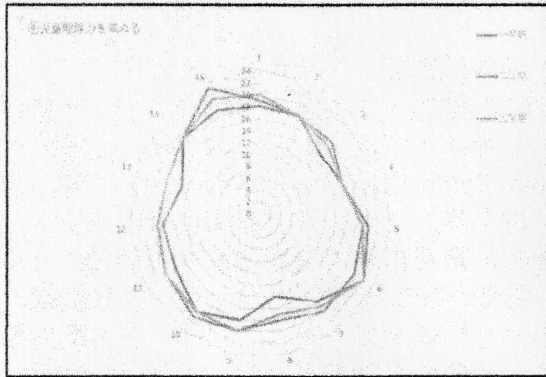
課題

- ①主体的な学びを実現するために必要な指導法
  - ◆友達の考えや自分の考えの変容、次の時間の課題を書かせている。
  - ◆わかりやすい発問、繰り返さない発問



課題

- ②対話的で深い学びを実現するために必要な指導法
  - ◆これまでの知識・理解だけでは説明できない場面設定
  - ◆各学年の「話す」「聴く」「学び合う」項目が達成



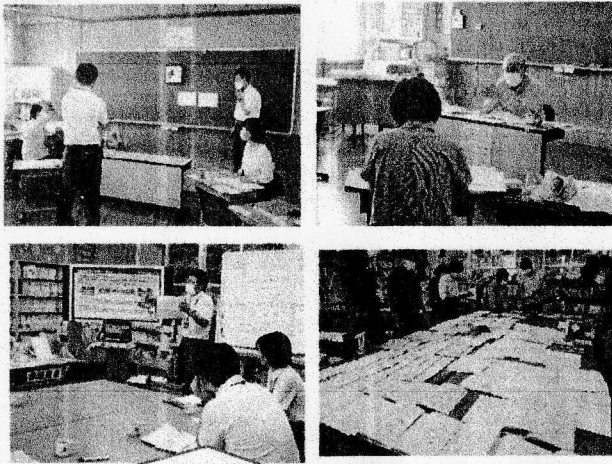
### ③児童理解力を高める

- ◆指示が明確でわかりやすい
- ◆子ども同士のつなぎ役に徹している

確かに児童が能動的に動く授業にはまだまだ課題はあり、標準学力調査(4月実施)や、一学期末の単元テスト総合評価においても、評定一の出現率が0%ではない。しかし、地道に「技」を磨くことで、我々のゴールである全ての児童の学力保障に近づくことは間違いない。

研究部会も「算数部」「国語部」の教科部会のみとしたことで、校内研修の議論も白熱する。授業研究を通し、職員全体の交流が生まれ、授業の楽しさ醍醐味を教師が実感し腕をあげようと努力する姿が頼もしく思う。

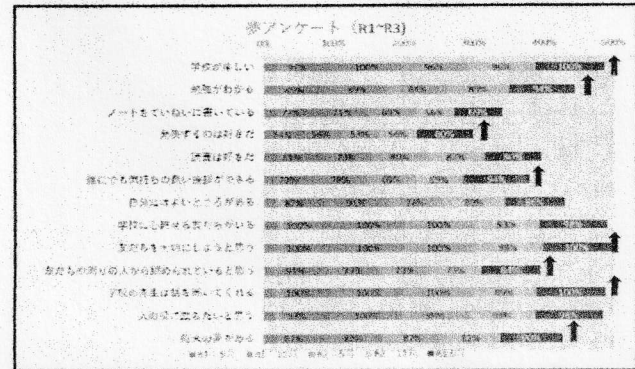
「日頃悩んでいることも、みんなと考えるので心強い。」職員の声である。ベテランから若年まで一緒に「学び合う」教師の姿こそが学校の課題の源だと実感する。



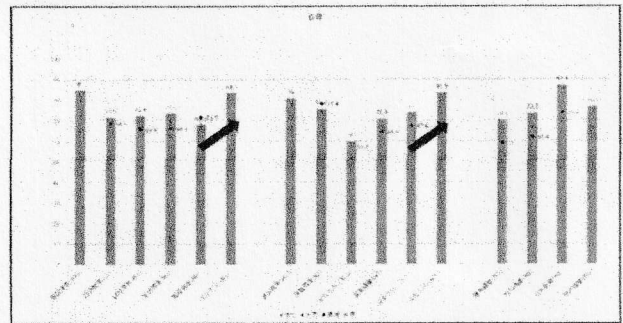
- ・算数教科部は高知市教育委員会スーパーバイザー藤田究先生を講師に、国語教科部は高知大学附属小田中元康先生を講師に招聘しご指導いただいている。(写真上)
- ・西部教育事務所池谷指導主事を招聘しての校内研修(写真左下)
- ・ノート交流は学期に一回、全児童のノート及び教員の教材ノートを交流し合う。(写真右下)

児童の学校生活意識調査(年2回)を見ても、各項目の数値が上昇している。特に、課題であった「発表することができる」の項目が飛躍的に伸びた。【R元: 54%→R3: 80%】

また、「学校が楽しい」100%、「勉強がわかる」94%、「友だちを大切にしようと思う」100%、「学校に心許せる友だちがいる」98%、「学校の先生は話を聞いてくれる」100%という結果となり概ね児童が学校生活に満足し、学習にも意欲的であると評価できる。



また、児童の意識に伴い、各学力調査の結果も、上昇傾向にある。



一方教員の勤務状況がどのように変化したか、校務支援システムが導入された令和元年9~11月(授業日60日間)と令和2年度、臨時休業後の5~7月(授業日60日間)の3か月を比較すると、超過勤務時間の月平均が49時間から43.3時間と減少し、教職員の働き方にも一定の成果が見られた。教科担任制の一步を踏み出したばかりだが、確実にその成果は児童の力となって実を結ぼうとしているのではないかと期待が高まる。

### 5 おわりに

「校長先生、さっきの授業面白かったですよ。来るのが遅かったですね。」と声をかけられる瞬間がたまらなくうれしい。授業改善への道は確かに険しい。しかし、志を失わなければきっとみんなの力で成し遂げられると信じている。そのために私は一人一人の学校教職員の心に灯をともしることができる校長でありたいと思う。



# 土佐教育研究会創立50周年記念講演会

演 題 「みんなの特別支援教育～通常の学級で取り組むこと～」

講 師 関西国際大学 教育学部 学部長 大学院人間行動学研究科

中尾 繁樹 教授



## 中尾 繁樹先生 プロフィール

関西国際大学教育学部 教育福祉学科 教授

同大学大学院 人間行動学研究科 臨床教育学専攻 教授

S 5 6 ～ 神戸市立学校教諭

H 1 1 ～ 神戸市教育委員会指導主事

H 2 0 ～ 現職

【他】 同志社女子大学、神戸親和女子大学、  
九州スポーツ医療専門学校、神戸総合医療専門学校等非常勤講師、  
前文部科学省学習指導要領改訂のための調査研究委員、  
元小児科学会学校保健とところの問題委員会委員、  
社会福祉法人EGF相談員、特別支援教育士SV、  
The Building up Team Japan 2016 for Pyeongchang特別講師  
尼崎市主席研究員他  
神戸市、松江市、長浜市、兵庫県、小野市、豊岡市、朝来市他の巡回相  
談及び専門家チーム等委員

## 【著書】

特別支援教育指導スキル大全 明治図書

～0歳から100歳までカラダづくり～生涯スポーツトレーナー教本 監修 日本健康スポーツ連盟

通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック 編著 明治図書

特別ではない特別支援教育①～⑤

神戸発！特別な配慮の必要な子どもへの具体的指導内容と支援策 編著 明治図書

新しい自立活動の実践ハンドブック 全国心身障害児福祉財団

新感覚統合の理論と実践 共著 学研

障害児を育てる感覚等合法 共著 日本文化学社 他